

呼吸器外科

スタッフ紹介



診療部長
井上 匡美
教授 (H2)
呼吸器外科学

岡田 悟 講師 (H19) 呼吸器外科	標 玲央名 医員 (H29) 呼吸器外科
古谷 竜男 助教 (H24) 呼吸器外科	土橋 亮太 医員 (H30) 呼吸器外科
中園 千晶 助教 (H24) 呼吸器外科	谷口 雄基 医員 (H30) 呼吸器外科
内堀 篤樹 医員 (H28) 呼吸器外科	垣淵 大地 医員 (H31) 呼吸器外科
西村 友樹 医員 (H28) 呼吸器外科	清水 智志 専攻医 (R6) 呼吸器外科
亀山 堅司 医員 (H29) 呼吸器外科	松原 弘樹 専攻医 (R6) 呼吸器外科

私たちの業務

◆ 多岐にわたる呼吸器外科疾患に対応

増加するさまざまな呼吸器疾患に対して、最新の外科治療を行っています。

肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、多汗症、炎症性疾患、未確診腫瘍などに対応できるようにしています。また各科との協力による拡大手術や連携手術も行っています。

呼吸器内科、放射線科、臨床病理部が一体となった診療体制を作り、患者様に負担の少ない医療を目指しています。

◆ 胸腔鏡下手術の利用

患者様にはより少ない侵襲で手術が可能のように内視鏡（胸腔鏡）を主に用い、2018年より保険収載された縦隔腫瘍、肺癌に対するロボット支援下内視鏡手術も積極的にを行っています。また、小さな傷でより早いリハビリ開始を行うことにより入院期間の短縮を図っています（平均術後入院期間7日間）。しかしすべての手術において安全性と根治性が優先されるようにしております。

◆ 充実したチーム医療

入院から退院まですべての患者様をチームで管理することにしています。

手術と同様に術後管理における安全管理は外科の重要な項目であり、毎朝の病棟担当医によるカンファレンスを行うことによって患者様の問題点を浮き彫りにし、解決方法を決定しています。

紹介医の手術見学や回診にもチームとして対応し、症例のカンファレンスへの参加も自由に行っています。当然ながら患者様を中心とした医療の連携に努めています。

◆ 学会、研究会活動

原発性肺癌や胸腺腫瘍に対する分子生物学的研究を行っており、臨床応用を目指した研究を行っています。また、積み重ねた症例は次の患者様にお役に立つように検討を重ね、学会などに報告しています。また紹介元の先生方にも役に立てるように臨床結果報告を随時させていただいています。

外来診療担当医師予定表

令和8年6月1日現在

	月	火	水	木	金
総合初診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
1 診		岡田	井上		古谷
2 診		西村	内堀		中園

実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
肺癌	術前検査として必要なデータ 病理組織診断 気管支鏡下肺生検 CTガイド下肺生検 臨床病期の決定 画像診断 CT、MRI、PETなど 耐術能 心電図、呼吸機能検査、栄養状態など 心臓超音波検査	外来で必要な検査を確認 検査入院 患者様への説明と同意 手術方法（術式）の決定 約10日間の入院
縦隔腫瘍	上記と同様	約10日間の入院 悪性の場合、集学的治療が必要な場合が多い。
重症筋無力症	脳神経内科との検討で手術方針を決定	術前術後の管理が大切 術後の治療は脳神経内科で行う。
転移性肺腫瘍	原発腫瘍の各科との検討 切除術後の状態の確認	手術適応を検討し切除 手術術式によるが約10日間入院
自然気胸	原則的には再発性、左右に既往のある場合 を手術適応とする。	胸腔鏡下手術 約3～5日入院
月経随伴性気胸		ホルモン療法なども考慮する。
手掌多汗症	代償性発汗についての理解が必要	内視鏡下交感神経焼灼術 左右7mmの傷で手術可能 3日間の入院
その他	感染性肺疾患については各疾患別に検討が必要。	

府立医大 呼吸器外科 医局 TEL・FAX 075-251-5739

URL <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/thoracic/>

救急対応 呼吸器センター外来 TEL 075-251-5023（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646